

医療機器開発支援ネットワークを ご活用ください

中小企業・ベンチャー・大学等による医療機器の開発・事業化にあたって、国や関連機関、企業、地域支援機関が連携して支援する全国組織「医療機器開発支援ネットワーク」が設立されました。

ネットワークでは、各都道府県に相談窓口を設置し、医療機器の開発段階に応じて医療現場のニーズ把握や薬事、知財等の支援を行うこととしています。三重県では下記の機関が窓口となっています。

ぜひ、ご利用ください。

- | | | |
|---------------|---|---|
| <p>お問い合わせ</p> | <p>●三重県健康福祉部ライフイノベーション課
電話：059-224-2331
E-mail：life@pref.mie.jp</p> | <p>●(公財)三重県産業支援センター
電話：059-228-3171
E-mail：iryu@miesc.or.jp</p> |
|---------------|---|---|

製品に関する医療・福祉現場の声を 聞いてみませんか

医療機器や福祉用具の製品開発には、ユーザーとなる医療・福祉現場の声を製品に反映していくことが欠かせません。

三重県ではみえテクノエイドセンター（津市）において、作業療法士等の専門家がアドバイスして、福祉用具等のモニタリングを実施しています。

また、三重県と医療・福祉機器開発において連携している広島県では、広島県内の医療機関・福祉施設で一定期間、製品を利用してもらう、使用感等のモニタリングを行う「福祉用具・介護ロボット実証・実用化フィールド事業」を実施しています。

この事業について広島県の協力を得て、三重県企業も利用できることとなり、すでに2社が利用しています。費用は原則無料です。ぜひご利用ください。お問い合わせはライフイノベーション課まで。

対象

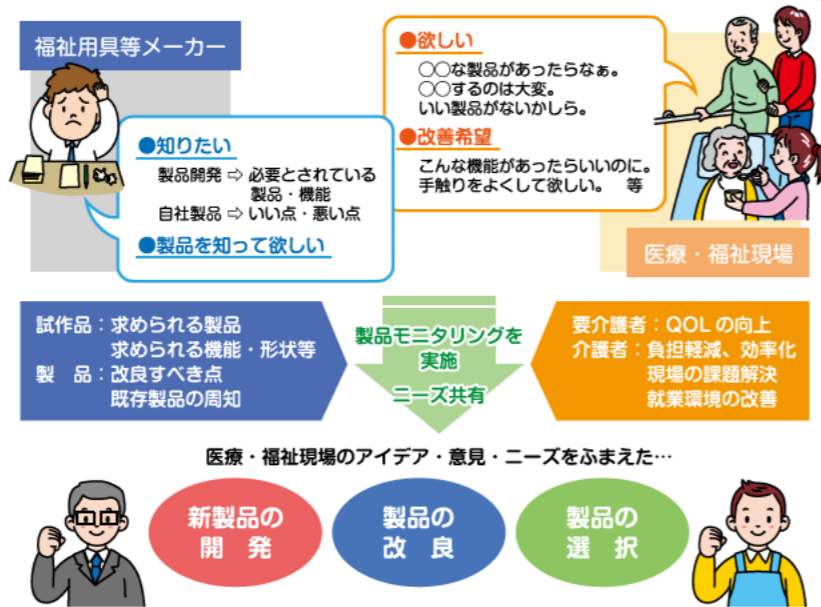
障がい者、高齢者などの日常生活上の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具ならびに補装具、または介護・福祉現場の負担軽減につながることを期待されるもの。

募集期間

平成27年6月～平成27年12月(予定)

【参考】平成26年度事業

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/229/ikoupt27.html>



メディカルバレー通信

発行/三重県健康福祉部ライフイノベーション課

vol. 31

2015. 2月



Contents

- ◆ みえライフイノベーションの製品開発プロジェクト
- ◆ 医療機器開発支援ネットワークをご活用ください
- ◆ 製品に関する医療・福祉現場の声を聞いてみませんか



発行 三重県健康福祉部ライフイノベーション課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地
(メディカルバレー推進班) TEL: 059-224-2331
(総合特区推進班) TEL: 059-224-3351
FAX: 059-224-2344 (各班共通)
E-mail: life@pref.mie.jp

メディカルバレープロジェクトホームページ

<http://www.mvp.pref.mie.lg.jp/>

みえ福祉用具産業支援ネットワークホームページ

<http://www.fynet.pref.mie.lg.jp/>

医薬品安全情報提供システムホームページ

<http://www.medsafe.pref.mie.lg.jp/>

三重県薬事工業情報提供システム(PIS)ホームページ

<http://www.piis.pref.mie.lg.jp/>

みえライフイノベーションの 製品開発プロジェクト

三重県では、産学官民が連携して医療・福祉機器等の製品や地域資源を活用した化粧品の創出に向けた取り組みを行っており、続々と製品が生まれています。その取り組みをご紹介します。

医療・福祉機器等の開発

三重化学工業(株)の製品開発事例

御社の主な事業は？

山川さん：工業用手袋、ケーキ等に同封する保冷剤、氷枕等の保冷具を主に製造しています。

医療分野に参入したきっかけは？

山川さん：約13年前、はじまったばかりのみえメディカルバレープロジェクトに参加して、病院向けのジェルタイプの湯たんぽ「ホットパック」を開発しました。

これまで製品開発・販売等で苦労した点を教えてください。

宮下さん：医療現場でのニーズを知ること、開発した製品の良さを広く知ってもらうことですね。

どうやってそれらの課題を解決したのでしょうか？

宮下さん：様々な展示会に出展して、とにかく自

お二人に
インタビューしました！



専務取締役
山川 大輔 さん



営業特販部
宮下 祐介 さん

社の名前と製品を売り込みました。また、三重県事業の東京・本郷地区の医療機器メーカーとのマッチングでは、医療現場に精通する医療機器メーカーと出会い、新たな製品のためのヒントを得ました。



東京・本郷地区の医療機器メーカーとの交流展示会

現在開発している製品は？

宮下さん：(公財)三重県産業支援センターの紹介を受け、東京・本郷地区の医療機器メーカーとともに膝用冷却剤の開発に取り組んでいます。

様々な支援機関と連携して製品が開発されているんですね！

公益財団法人三重県産業支援センター

(公財)三重県産業支援センターでは、企業のマッチングをはじめ、ものづくり技術の高度化、人材育成、国・県などの補助金の紹介・申請書のブラッシュアップなど、企業のみなさんの悩みを解決する総合的な支援をしています。

まずはご相談ください！



コーディネーター(左から鎌谷さん、山本さん、渡部さん、鈴木さん)

(公財)三重県産業支援センター
連絡先：059-228-3171
メール：iryu@miesc.or.jp

三重化学工業(株)が開発した製品



「**バリアホット**」
タオルウオーマー(タオル蒸し器)で温めて使用する温熱剤



「**アイシングフィットG**」
突き指や指の捻挫等に使用する保冷剤

商品に関するお問い合わせは、
三重化学工業(株)営業特販部
(0598-51-2361)まで

地域資源を活用した製品開発

鳥羽地域における化粧品開発事例

中村さんに
インタビューしました！

パールプリンセス
ボディスキンケアジェルをもつ
鳥羽商工会議所
中村みやびさん



パールプリンセスをどのように開発されたのですか？

中村さん：鳥羽の水産資源を活用した鳥羽オリジナルの商品を開発し、「鳥羽」自体をPRしたいと考えました。そこで、化粧品メーカーである御木本製薬さんをはじめ、会議所の女性部、旅館の女将さん、海女さん、鳥羽市観光協会、行政の方々と協力して女性に喜ばれる商品を開発しました。

鳥羽の水産資源は何が入っていますか？

中村さん：スサビノリとイシゲです。

これらを選んだ経緯は？

中村さん：三重県水産研究所が、鳥羽で未利用な水産資源の保湿成分に注目して、アドバイスをしてくれました。また、素材調達には鳥羽市水産研究所の協力のもと、鳥羽磯部漁協に声を掛けてもらいました。

製品開発にあたって気をつけたことは？

中村さん：女将さんをはじめ会議所の女性部や鳥羽市観光協会、鳥羽市役所の女性職員が化粧品のターゲット層である30～50歳代の女性の気持ちや鳥羽らしさを考えて、製品のコンセプト、パッケージ作成等に協力していただきました。



旅館の女将さんや海女さんたち

製品の販売を開始してからの反響はいかがですか？

中村さん：鳥羽の旅館に宿泊いただいた方によく手にとってもらえています。売り上げも好調で、ご使用いただいた方からは購入して良かったとの声が届いています。

商品に関するお問い合わせは、鳥羽商工会議所 (0599-25-2751) まで

三重県水産研究所の取り組み

三重県は海藻の種類が多く、今回使用したスサビノリやイシゲのほかにもヒロメ、アラメ、アカモクなど、食品としての機能性に富んだ海藻もあります。海藻をはじめとする魚介類の未利用資源に興味をお持ちでしたら、ぜひ水産研究所までご連絡ください。お待ちしております。



三重県水産研究所
井上 美佐 さん

三重県水産研究所
連絡先：0599-53-0016
メール：suigi@pref.mie.jp

鈴鹿医療科学大学の取り組み

今回はパールプリンセスとハンドマッサージを組み合わせ、リラックス効果の有無に関する共同研究を実施しました。今回の研究では、血液量の変化で脳の活性化を測定するNIRS(ニルス)を用いて、脳の興奮や鎮静(リラックス)効果の確認を行いました。大学では付加価値を高める製品づくりに向けて、企業の取り組みを応援します。



東洋医学研究所
石田 寛夫 所長



鈴鹿医療科学大学
東洋医学研究所
連絡先：059-381-2388(内線106)